



ものづくりを諦めない 強い意志で全国区の企業に

宮古市 株式会社オーレックス

宮古市刈屋に工場を置く各種ゴム製品の総合メーカー、株式会社オーレックス。誘致企業としてスタートするも受注減やメーカーの撤退などいくつもの試練を経て、現在は品質と技術力の高さとで全国に知られる企業に成長した。その強さの根源を佐々木健治社長は「あきらめないこと」と話す。

開発から製造まで対応できる高い技術力

ベアリングあるいは潤滑油など、機械の伝導性能に関わる部分に必ず使用されているオイルシールやパッキン、ガスケット類。そのニーズは製品の高度化に呼応し高性能・精密化がすすめられている。

「メーカーも、重要な部品であればあるほど弊社に依頼してくれます。競合他社は、岩手はもちろん東北地方にも存在しません」。

きっぱりと話すのは、宮古市に工場を置く株式会社オーレックスの佐々木健治社長。同社は各種ゴム製品の総合メーカーとして全国区の知名度を誇っており、特に送り焼き(ジョイント加硫)による大口径リングの製造に関しては日本に数えるほどしかない企業のひとつである。だが創業から30年余を数える同社の、これまでの道のりは決して平坦ではなかった。

岩手工場の建設は昭和61年。宮古市刈屋出身で、東京都大田区でオイルシールやパッキン類の商社を経営していた現会長の中屋鋪舜造氏が、旧新里村の誘致企業として進出したのがスタートだ。だが汎用リングの下請けであったため黒字化が

難しく、自ら営業に乗り出して国内有数のシールメーカーの受注を獲得するなど奮闘。「最初の10年は本当に苦しかったが、生産拠点や雇用を守るためあきらめなかった」と佐々木社長は振り返る。苦境の中でも送り焼きリング事業を開始するなど品質や技術の向上につとめた結果、平成10年には空圧機器の世界トップメーカーの受注を獲得。現在は車関係や薬品メーカー、半導体装置やロボット関係などにも取引先が広がり、時にメーカーから材質や形状の相談を受けるなど、その知識にも信頼が寄せられている。

そんな同社の強みは「納期遵守を徹底し、不良品は絶対に流さない検査体制」と佐々木社長。設備やラインの自動化を推進して短納期にも対応する一方で、検品は人間の目視によるチェックを段階的に実施。月産1000万個以上を生産するという企業では驚くべきことであるが、機械ですら見落とす不具合も見つけてしまうベテラン検査員が同社にはいる。こうした品質、納期の安定性が全国から引き合いの絶え

ないゆえんである。

技術や生産拠点の海外流出にも耐え、国内製造に専念してきた同社。振り返って佐々木社長は「あらためて日本製品の品質は他国にはまねができません」と実感したし、国内需要はまだまだある」と手応えを話す。この春には、国内自動車メーカーと開発から携わったエンジン系センサー部品を搭載した自動車が発売される予定という。

「図面から関われば競争相手もない。目指すのは提案型企業です」。

オンリーワンのものづくり。それは、同社のあきらめない姿勢とたゆまぬ努力が生み出した。



代表取締役社長
佐々木健治



①送り焼きのライン。2台の棒焼き用機と1台の繋ぎ用機を駆使してゴムの棒を繋げていく。量産品ではないためほぼ全てが手作業だ。②同社の誇る検品部門。微小なリングも素早い目視で選別していく。一人で1日20万個もの検品を実施。③昨年自動検査装置も導入したが、目視検査の信頼度は高い。④センターの設備貸与制度で導入した自動計量包装機も稼働中。⑤最小3mmから最大300mmまでのOリングに対応。



✕ オーレックスの技術

「送り焼き」とは一発成形が不可能な大口径Oリングを製造する技術。素材となる棒状のゴムを熱と圧力を加えて加硫(ゴム化)した部分と未加硫部分に加工したのち、求められる口径に合わせて未加硫部分を繋ぎあわせていく。品質の均質性も求められ、熟練の技術がないとできない。



📄 いわて産業振興センター活用事例

設備貸与制度を利用して「2面分解全自動四連真空プレス機」を導入したほか、「機械要素技術展」へも合同出展の実績もある。事業運営について「よろず支援拠点」も利用している。

📊 企業データ

会社名 株式会社オーレックス 岩手工場
本社 岩手県宮古市刈屋14-52-1
電話 0193-72-3111
代表者 佐々木 健治

📄 CORPORATE DATA

創業 昭和61年(1986)7月
従業員 49名(岩手42名、本社7名)
業種 工業用ゴム製品の製造
URL <http://www.nakashiki.com/index.php>